

中江 慣行小作権はそういう感じだけれども、本来の涙金というのは……。

島本 それはまた違う。

田代 生活保障だ。

中江 滞納1年分の小作料、あるいは最後の作離れするときの小作料を、免除してやるというところからスタートしている。

梶井 小作権というやつと作離れ料というのは必ずしもイコールではないと思う。

玉井 戦前の歟先料などといわれるものは、どちらかというところ、利用管理に対する地主の恩恵的給付みたいなものではないか。要するに、おまえ、よくやってくれたということで、取上げるときに、なんぼかの金をくれてやっていた。

#### (17) 小作料差額と残存収益計算

梶井 さて、(2)と(3)だけれども、これはどうも違うような気がする。(2)は、最低増価額をこれでおさえようということでしょう、考え方の問題としていえば。

田代 最低というか、むしろ平均的なところではないか、3%、5%を考えたということは。

玉井 小作料の差があることが前提になる。そして小作料でやったとき、その中身はなんだといたら、こういうものから構成されているという説明ではないか。したがって額が少なければ、まず純収益のほうが現実にはだんだん落ちていくということであり、へたをすれば、投資額を割る場合だってあるかもしれないということではないか。

梶井 逆に、小作料の差額とイコールになるべきだということで行くと、小作料の差額を資本還元した場合には、耐用年数というものは入ってこない……。

島本 だからそれは還元でなく、現価方式でやろう……。

玉井 年金現価と資本還元と、2方式になっている。

梶井 小作料の差額を？

島本 耐用年数のある改良にあっては、年金現価方式によって求めることが妥当

であろうという……。

**梶井** 小作料の差額をおさえようというときは、すべてを永久的改良としてみなすことになる。

**田代** そうではなくて、小作料がだんだん下がってくる。1万円であった標準小作料を2万円にしたけれども、この考え方は、2万円が1万8,000円なり1万7,000円に下がる。それは非現実的な想定だけれども、考え方としてはそう見える。

**島本** 額は1万円なら1万円でもいいが、それは耐用年数残り15年なら15年分の複利年金現価方式で計算しましょうということだ。

**梶井** 小作料の差額でおさええた場合でも……。

**田代** 永久的改良でなくて、耐用年数のある改良だけれども、改良の効果は年々落っっってくるはずだ、だから小作料の差額も、年々小さくなっていくはずだという考え方だ。

**梶井** しかし、小作料の差額でおさえるには、あまり具体的ではないんじゃないか。小作料の差額という形で与えられたときには、ある意味でもう地代化しているから、扱いとしては永久的改良になって、資本還元されるのではないか。

**田代** そうはいつでも、やっぱりその効果が年々減少していくということになれば、小作料も年々下がっていくはずだ……。

**石井** その場合、小作料の増額要因というのはすべて、改良投資の効果に原因と結果が一元的に結びついているということが証明されなければ、いえないだろうが……。

**田代** そうみなすんだな。

**島本** みなさざるをえないのではないか。

**田代** 土地所有というのは、そういうものなんでしょう。

**石井** 有益費の範囲など全部が、えらく単純化されてしまう。

**中江** 実態は、耐用年数の間に小作料がだんだん下がってくるということではない。

梶井 ありえない。

中江 例えば暗渠をやって、耐用期間は一定だ。それで耐用が終了すれば増加収益はガタッと落ちる。こういうことだと思う。

石井 資本還元でないやり方だって、小作地の実態と小作人の意識からすれば、投資が回収されたと思えばいいわけだ。ある時点の小作料の差額をとって、それを永久の資本還元ではなくてより低い割合の形で資本還元するわけでしょう。そのことによって、小作人が投資を回収しえたと観念できれば、ちっともおかしくないといえる。

梶井 (2)の「具体的には」というところの小作料の問題というのは、(1)の項に含めることはできないのか。(2)の前段とくっつけると、ちょっと理解しにくい。

田代 理解しにくいけれども、地価と小作料とを分けてあるところがミソでしょう。

梶井 地価の増加でつかまえるか、小作料の増加でつかまえるか……。

田代 (2)の考え方は、純収益還元地価の増加の仮面をかぶっているけれども、ほんとうは、「費シタル額」に無限に近づいてきている。

梶井 そこを小作料とくっつけるということをいうから……。

石井 しかたがないのではないか。それが増価額の反映として、有益費を最も的確に反映しているものとみなすわけだから。

梶井 地価と小作料といえば、並びがいいというわけだ。

石井 地価といったところでは、永久改良投資を意味する。

## (18) 耐用年数をどう考えるか

梶井 ここで考えているのは、この増価額の中身というのを、小作料とかなんとかという形でなくて考えるんだったら、最低増価額はこれぐらいはあるはずだという想定増加額ではないのか。

石井 最低か最高かはわからない。